



縦貫道全通で府北部と京阪神の消費地との距離が縮まる(18日、京都府京丹波町)

京都縦貫道が全通 企業が続々拠点を



オムロンの工場(写真も)とくまの研究所(いずれも京都府鞍馬市)

大動脈 産業に好機

京都市北部に工場や研究拠点を設ける動きが相次いでいる。伝統産業が盛んだったことや、自治体が誘致に力を入れてきたことに加え、京都縦貫自動車道の全線開通で、消費地の京阪神地域に近い利便性が改めて注目されているのだ。先端の研究所や、シミュレーション的な機能も兼ねた「見える工場」など特色ある施設も多い。

日東薬品工業(京都府向日市)は今年、京都府鞍馬市に約30億円を投じた新工場を完成させる。年内に稼働し、カルシウム配合錠などの生産を増強する。京セラは昨年、子会社を通じて鞍馬市に約150億円を投じ、スマートフォンに

50億円を投じ、スマートフォン(スマホ)などに使われる半導体の樹脂基板工場を稼働させた。同社はスマホや自動車に使われる複数の部品を世界トップシェアだが、成長分野の樹脂部品でも存在感を迫る。

掘場エスニック(京都市福知山市)は半導体分野の研究所を開設した。半導体製造で使うガスや液体

の制御機器などの先端研究を進めている。ジェエス・ユアサコーポレーションがホンダと共同で出資するリチウムイオン電池メーカー、アルテック(福知山市)は生産ライン増設に約100億円を投資した。

京都縦貫自動車道の全線開通で府北部の利便性は高まる。日東薬品工業は従来、時間近くかかっていた本社との移動が1時間程度に短縮される。といった「生産現場との連携が密になる」と期待する。京セラも京都府や

秀な人材確保にもつながると期待する。オムロンは鞍馬市に産業用センサーなどの基幹工場を持つ。生産現場の状況を監視するセンサーを配置したり、電力使用状況を一目で把握できるようにしたりする自社製品を活用した先進的なシステムを導入。年間300社を超える製造業関係者が見学に訪れ、さらにはシミュレーションのよになっている。

伊丹空港 関西国際空港 港のアクセス向上を 見込むほか、「地域活性化で優

京都方面とのアクセスが向上することで、一時的供給能力が高まる効果も期待している。鞍馬市で創業したグンゼは、昨年5月に同市に開いた施設「あやぐんゼスエエ」の集客を見込む。同施設は資料館や織物の特産店、バラ園も一体運営。観光バスが立ち寄るケースも多く、5月までに予想乗客数約2倍以上の1万人が施設を訪れた。これまでは阪神方面からの乗客が多かったが「京都・鞍馬方面からも来客が期待できる」といふ。

山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）
早期事業化に関する

要 望 書

平成27年11月

丹後・地域高規格道路推進協議会

山陰近畿自動車道早期事業化に関する要望書

京都縦貫自動車道が全線開通となり、丹後地域では、観光客の増加な
ドストック効果が太いに表れています。

一方、山陰近畿自動車道は、日本海沿岸国土軸を形成し、高規格幹線
道路に匹敵する重要な道路であるにもかかわらず、全国的な幹線道路網
の整備の中で唯一の「空白地帯」となっており、京都府内約44kmの
うち、供用中・事業中は約16kmしかなく、最も整備が遅れています。
地域の安全・安心、国土の強靱化を実現するとともに、地域間交流・
連携により地域経済の活性化を図るため、計画的かつ着実に全線早期整
備が進められるよう、下記事項を要望します。

- 一、与謝天橋立IC～大宮森本IC間の平成28年
度供用開始に必要な事業費を確保すること
- 一、大宮峰山道路の一日も早い完成に向け、事業を
推進すること
- 一、大宮峰山IC～網野ICまでを早期事業化する
こと
- 一、兵庫県豊岡市までの区間についてルート決定に
向けた本調査を実施すること

(補足)

超高齢化・人口減少の問題等を抱える丹後地域にとって、都市部と連
結する広域幹線道路網の整備が喫緊の重要課題であり、山陰近畿自動車
道の早期完成が、地方創生には重要不可欠であります。

山陰近畿自動車道早期事業化に関する要望書

京都縦貫自動車道が全線開通となり、丹後地域では、観光客の増加などストック効果が大いに表れています。

一方、山陰近畿自動車道は、日本海沿岸国土軸を形成し、高規格幹線道路に匹敵する重要な道路であるにもかかわらず、全国的な幹線道路網の整備の中で唯一の「空白地帯」となっており、京都府内約44kmのうち、供用中・事業中は約16kmしかなく、最も整備が遅れています。地域の安全・安心、国土の強化を実現するとともに、地域間交流・連携により地域経済の活性化を図るため、計画的かつ着実に全線早期整備が進められるよう、下記事項を要望します。

- 一、与謝天橋立IC～大宮森本IC間の平成28年度供用開始に必要な事業費を確保すること
- 一、大宮峰山道路の一日も早い完成に向け、事業を推進すること
- 一、大宮峰山IC～網野ICまでを早期事業化すること
- 一、兵庫県豊岡市までの区間についてルート決定に向けた本調査を実施すること

(補足)

超高齢化・人口減少の問題等を抱える丹後地域にとって、都市部と連結する広域幹線道路網の整備が喫緊の重要課題であり、山陰近畿自動車道の早期完成が、地方創生には重要不可欠であります。

平成27年11月17日

丹後・地域高規格道路推進協議会
会長 京丹後市長 中山 泰

舞鶴市長	多々見 良三
宮津市長	井上 正嗣
京丹後市長	中山 泰
伊根町長	吉本 秀樹
与謝野町長	山添 藤真
舞鶴市議会議長	桐野 正明
宮津市議会議長	松浦 登美義
京丹後市議会議長	三崎 政直
伊根町議会議長	泉 敏夫
与謝野町議会議長	今田 博文
舞鶴商工会議所会頭	廣瀬 久哲
宮津商工会議所会頭	今井 一雄
京丹後市商工会長	沖田 康彦
伊根町商工会長	濱野 儀一郎
与謝野町商工会長	安田 光孝
一般社団法人 舞鶴観光協会会長	齋藤 友幸
(公社) 天橋立観光協会会長	小倉 信彦
一般社団法人京丹後市観光協会会長	長濱 孝次
伊根町観光協会会長	向井 義和

与謝野町観光協会長	今井 英之
京丹後市区長連絡協議会長	前田 史由
京丹後市社会福祉協議会長	磯田 勵一
丹後機械工業協同組合理事長	山本 正
丹後織物工業組合理事長	渡邊 正義
京丹後市(宿)おかみさんの会座長	松本 明代
京丹後市体育協会长	伊東 嵩英
京丹後市文化協会长	田崎 敬章
京丹後市国際交流協会长	藤村 益弘
京丹後市PTA連絡協議会長	田村 浩章
京丹後市女性連絡協議会長	小森 明美
京丹後市老人クラブ連合会長	尾瀬 崇
公益社団法人 京丹後市シルバール人材センター理事長	高山 充男
京丹後建設業協会长	井上 敏
京丹後市建設業協栄会長	山本 務
京都農業協同組合代表理事理事長	岡田 實郎
京都府漁業協同組合代表理事組合長	西川 順之輔
丹後海陸交通株式会社取締役社長	小倉 信彦
丹後地区森林組合代表理事組合長	梅田 武範
株式会社京都銀行峰山支店長	吉田 和男
京都市北都信用金庫峰山中央支店執行役員支店長	野村 幸宏
峰山郵便局峰山郵便局長	出口 亨
NP0法人京丹後コミュニティ放送理事長	今田 弘一
丹後衛生協会长	今西 善右衛門

鳥取豊岡宮津自動車道整備推進協議会

要 望 書

会 長	鳥 取 市 長	深 澤 義 彦
副会長	新 温 泉 町 長	岡 本 英 樹
会 員	岩 美 町 長	榎 本 武 利

- 1 山陰近畿自動車道の早期整備について
- 2 総合的な道路整備の推進について

平成27年11月

鳥取豊岡宮津自動車道整備推進協議会

要 望 書

私たちのこのような思いをどうか受け止めていただき、以下の要望を実現していただくよう、よろしく申し上げます。

鳥取県東部、兵庫県北部及び京都府北部は、半世紀近く前から日本海沿岸縦貫自動車道としての整備を要望してきましたが、昭和62年に国が定めた高規格幹線道路網においても日本海沿岸の唯一の空白となり、我が国の経済発展から取り残されてきた地域です。

近年、ようやく鳥取県東部圏域では高速道路ネットワークの整備が進展し、関西方面からのアクセスの便利さから、沿線地域では全線開通を契機に工業団地の分譲が進み、食品、繊維など様々な分野の企業進出による新たな雇用が創出されています。また、観光分野においても沿線地域への中部地方や近畿地方からの観光客が増加し、観光集客エリアが拡大・広域化するなど、高速道路ネットワークは沿線地域に大きな経済波及効果をもたらしています。

特に「鳥取豊岡宮津自動車道（以下、山陰近畿自動車道という。）」では、平成26年3月22日に交通の難所として地域の発展を阻害し長年の悲願でもあった駒馳山にバイパス（鳥取市福部町湯山～岩美郡岩美町本庄）が待望の供用を迎え、沿線地域では防災、医療、観光など様々な分野で効果が実感されています。

しかし、山陰近畿自動車道が高規格幹線道路を補完する地域高規格道路として計画された平成6年から21年を経た今日でも、全体の供用区間は120kmのうちわずか28.0kmです。事業化率も4割弱で全線開通の目的も立たず、地域の成長・発展の機会を奪われているこの状況は、到底容認できません。

山陰近畿自動車道は、平成22年10月に世界ジオパークネットワークの加盟認定を受けた地質遺産「山陰海岸ジオパーク」エリアをカバーするジオパークロードとして広域観光圏形成に不可欠な道路であり、山陰自動車道、鳥取自動車道、北近畿豊岡自動車道及び京都縦貫自動車道との広域ネットワーク化とあわせ、観光振興による圏域への経済波及効果の拡大に大きく影響する道路です。

また、地域経済の活性化、雇用創出、安全安心な市民生活の確保など、沿線地域での多岐にわたる地方創生の取り組みを継続していくためには山陰近畿自動車道の速やかな整備が必要です。

1 山陰近畿自動車道の早期整備について

- (1) 山陰近畿自動車道全線を早期に整備していただくこと。
- (2) 平成27年度より計画段階評価を進めるための調査に着手された「山陰近畿自動車道 鳥取一福部間」について、早期事業化を実現しミッシングリングの解消を進めていただくこと。
- (3) 居組IC～浜坂IC（仮称）間を事業化していただき、山陰近畿自動車道西側区間の早期全線供用を進めていただくこと。

2 総合的な道路整備の推進について

地域の安全・安心、国土の強靱化、地方創生を実現し、経済に好循環をもたらすストック効果を早期に発揮させるため、既存の道路を最大限に活用し、長寿命化を図るとともに、必要な道路整備が進められるよう、次に掲げる項目を計画的かつ着実に推進していただくこと。

- (1) 事前防災、減災対策の推進による災害に強い道路の構築
 - (2) 高規格幹線道路等の未整備区間の解消、暫定2車線区間の4車線化の早期実現
 - (3) 道路の老朽化対策における人材育成、点検・診断システムの拡充及び点検、診断、補修等に対する財政措置の充実
 - (4) 人流・物流の円滑化のための渋滞対策の推進
 - (5) 暮らしの道を再生する生活道路、通学路等の交通安全対策の推進
- 上項目の推進に必要な予算を確保したうえで、長期安定的に道路整備が進められるよう、安定的かつ十分な予算を確保していただくこと。また、高速道路ネットワークを地域振興に結びつけるために必要な支援制度等の充実を図ること。

平成27年11月17日

鳥取豊岡宮津自動車道整備推進協議会

会長 鳥取市長 深澤義彦

山陰近畿自動車道の整備推進に関する

要 望 書



平成27年11月17日

但馬・地域高規格道路推進協議会

要 望 書

山陰近畿自動車道は、鳥取県東部から京都府北部に跨る地域高規格道路であり、全長120kmのうち、約65kmが未だ事業化に至っておらず、全線開通の目途も立っていません。

その中心に位置する兵庫県の但馬地域は、豊かな自然環境に恵まれ、かねてより多様な文化、歴史、風土を活かした地域づくりを推し進めてまいりました。

近年では、天空の城「竹田城跡」はもとより、「水ノ山・鉢伏高原」、名湯の誉れ名高い「城崎温泉」、「湯村温泉」に加え、世界ジオパークネットワークに加え加盟再認定された「山陰海岸」、ラムサール条約湿地に登録された「円山川下流域」、その周辺水田にコウノトリが悠然と舞う豊かな自然環境や、豊富な「海の幸」、「山の幸」とも相まって、わが国のみならず世界中の方々に愛される地ともなっています。

しかしながら、その一方で急速な人口減少社会の到来、少子高齢化現象の顕在化は、脆弱な但馬地域の財政を更に圧迫し、今後一層深刻な影響を及ぼすことが懸念される状況であり、地域の特徴を活かした持続可能な社会を創生することが切実かつ喫緊の課題となっています。

このような事情を抱える但馬地域においては、地域全体で1つの第三次救急医療機関を共有するなど互いに補完・連携しあうとともに、人々の交流をより一層進めていくことが求められています。これらの実現には、「災害時の交通を確保する危機管理の道」、「困難な医療環境を克服する命の道」そして「地域経済の活性化に寄与する大交流の道」は必要不可欠です。

但馬地域が更なる飛躍・発展を遂げ、将来に夢と希望の持てる地域となるためには、「山陰近畿自動車道」の早期整備が必要であり、地域の連携をより一層強固なものとし、活力と魅力にあふれた地域創生に大きく貢献するものと確信しています。

つきましては、つぎの事項の早期実現に向けて、格段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

1 山陰近畿自動車道の早期整備

- (1) 浜坂道路の平成29年度完成
- (2) 居組ICと(仮)浜坂IC間の早期事業化
- (3) 佐津ICと京丹後市久美浜町間について、北近畿豊岡自動車道との接続方法の決定と早期事業化に向けた調査促進

2 特に、「浜坂道路」が予定どおり確実に平成29年度供用開始できるよう今年度、補正予算などによる追加事業費の確保

3 道路関係予算の総額確保

道路整備と道路施設の老朽化対策の推進に必要な道路関係予算の総額を確保

平成27年11月17日

但馬・地域高規格道路推進協議会
会長 豊岡市長 中貝宗治

会長	豊岡市長	中貝宗治
理事	養父市長	広瀬 栄
理事	香美町長	浜上 勇人
監事	朝来市長	多次 勝昭
監事	新温泉町長	岡本 英樹

山陰近畿自動車道の整備推進に関する

要 望 書

平成 27 年 11 月 17 日

山陰近畿自動車道整備推進三府県議会議員の会

要 望 書

三府県の日本海沿岸地域は、産業・経済・文化などあらゆる分野で深く関わりながら共に歩んできた。現在、関係自治体では地方創生を力強く進めたるため、地方版総合戦略を策定し、人口減少に歯止めをかけ、山陰海岸ジオパークなどの地域資源を活かし、個性豊かで魅力ある地域社会を目指して取り組んでいる。

当該地域につながる近年開通した高速道路沿線では、企業進出の活発化や観光客数の増加など目に見えるストック効果が発現されている。

高規格幹線道路網の空白区間である当該地域において、地方創生の基盤として、このようなストック効果を最大限に発揮させるとともに、山陰海岸ジオパークを東西につなぐ山陰近畿自動車道の整備が不可欠である。また、日本海国土軸の一部を形成する幹線道路でもあり、早期整備を図るため、下記事項について強く要望する。

記 記

1. 補正予算などによる追加事業費の配分も含む事業中区間の早期供用に必要予算を確保すること。
2. 未事業化区間の早期事業化に向けて、特に調査中区間の調査推進に必要な予算を確保すること。
3. 山陰近畿自動車道をはじめ、必要な路線の整備が停滞することがないよう道路関係予算の総額を確保すること。

平成 27 年 11 月 17 日

山陰近畿自動車道整備推進三府県議会議員の会

会 長 山口 享 昭
副会長 巽 日村 豊彦
副会長 日村 豊彦

